

青森中央学院大学看護学部開設記念講演
相補性から全体性への道 ～ホリスティックへの手がかり～

平成 26 年 7 月 4 日、講演が行われる学術交流会館には在学看護学生や様々な医療関係者と思われる人々や、地域の方たちが大勢集まっていました。そんな中、法衣を身にまとい、玄侑宗久氏が登壇されました。

「患者という存在は、医療・看護的な対象であることは勿論だが、社会的、精神的な存在としても扱われなくてははいけない。いわゆるホリスティック医療である。しかし、人間の知性は決して全体性をそのまま扱えるようにはできていない。全体性へ糸口としての相補性について、ご一緒に考えてみたい。」という問いかけの中講演が始まる。

人間生きていると両極端に物事を考える癖がついている。
きれい・きたない、よい・わるい、みぎ・ひだりか。何故そのように自分が判断するか根本的な事に目を向けず、この世に生を受け「私」が発生してから培った過去の出来事より判断していることに気づかずにいた。自分の中にある「両極端」に気づかされる講演であった。

玄侑氏の考え方は医療の世界だけでなく、我々の福祉の世界でも当てはまる。対象者を障がいの部分のみで判断せず、その人の置かれている過去・現在を分析し、判断し、受け入れる。

ご本人が既にもっている力を正當に発揮できる環境づくりを、ご本人と一緒にいることができるよう支援することが望ましい。

障がい者を困む現状こそが相補性であり、それを行うことで理想的なホリスティックへと移行することができる。

用語の定義

- ・ホリスティック；全体性・包括的。

ある対象を全体の中にある一部分のみで判断することなく、すべてを見、すべてで判断し、すべてを受け入れる。これがホリスティック＝全体性。

- ・相 補 性；相手にないところを補う、補い合うということ。

看護職員 吉田